

# 指導救命士が PDCAサイクルを回す

印旛地域救急業務メディカルコントロール協議会  
事後検証一次検証者委員会

四街道市消防本部

藤崎 秀幸



# 印旛MC体制

印旛MC

ワーキング  
グループ

構成

- 6消防本部
- 2救命救急センター
- 1基幹病院
- 医師会

事後検証一次

検証者委員会

プロトコル

委員会

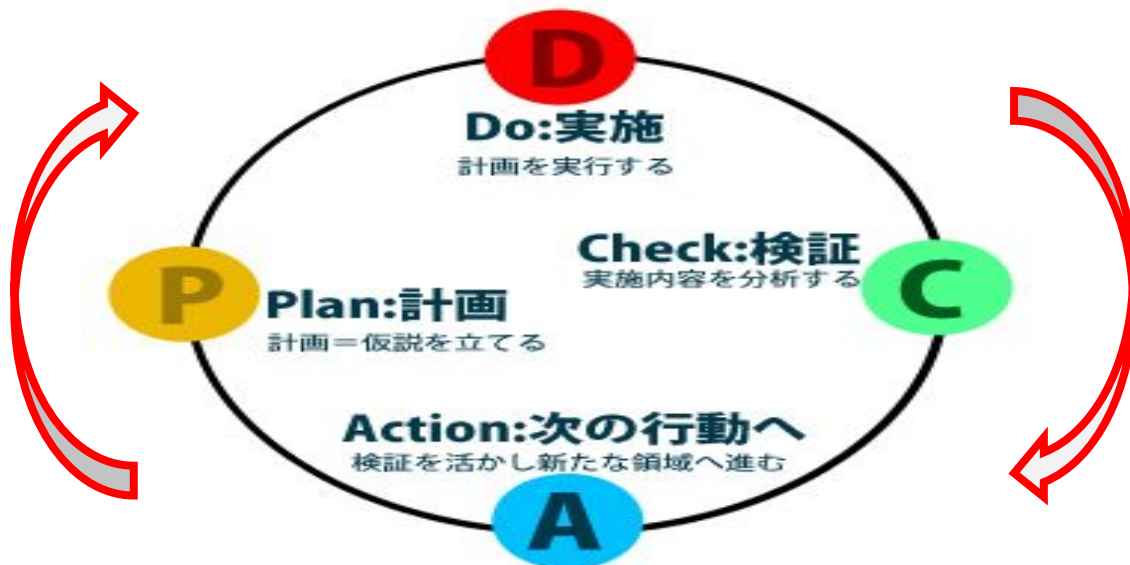
研修委員会

局地災害

対策委員会

指導救命士の横断的関与

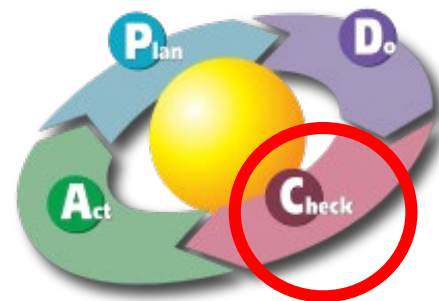
MC体制強化



PDCAの加速

# 印旛MC内の救急活動を調査

- 管内6消防本部において、2017～2018年の2年間に  
ショック輸液を行った症例  
CPA時の静脈路確保、アドレナリン投与を行った症例
- 指導救命士中心に集積データを解析  
→ 問題点抽出



## 抽出項目

- ① 傷病者接触からショック輸液の**指示要請**までの時間
- ② 傷病者接触からCPA時の静脈路確保**指示要請**までの時間及び**アドレナリン投与**までの時間

# 調査結果

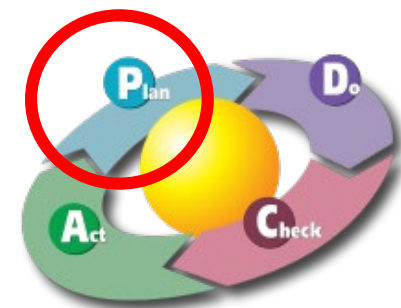
2017～2018年の2年間：

- ・ショック輸液 441例  
接触～指示要請 12分44秒
- ・CPAの静脈路確保 631例  
接触～指示要請 8分07秒
- ・アドレナリン投与 221例  
接触～アドレナリン投与 18分47秒

- 救急隊活動に、時間を要しすぎている。
- 活動時間短縮のために介入（Act）が必要ではないか？
- それには明確な時間目標（Plan）が必要ではないか？

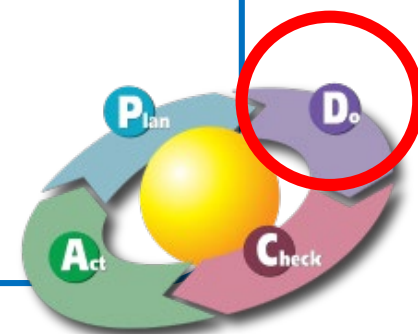
# 事後検証一次検証者委員会に問題提起

- 委員会に救急活動調査結果を報告
- 指導救命士中心に改善策を協議
- 活動の目標時間を設定 (Plan)



委員会からの発信として、  
時間目標の設定を軸とし、救急隊のみならず、支援隊、  
事後検証などに及ぶキャンペーン展開を立案

2019年4月より開始 (Do)



# 通知内容

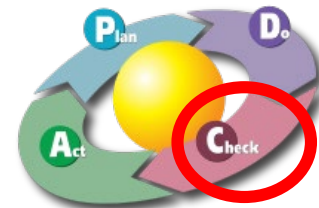
- 1、ショックに対するショック輸液の指示要請にあつては、傷病者接触から**5分**以内を目標とする。
- 2、CPAでアドレナリン投与の適応があると判断した場合の指示要請にあつては、傷病者接触から**5分**以内を目標とする。
- 3、CPAでアドレナリン投与を行う場合にあつては、傷病者接触から1投与目まで**10分**以内を目標とする。
- 4、この目標時間は、あくまで目標値であり必ずこの時間以内に活動するものではなく、目標値に近づけるよう努力するものとする。

# 再調査

目標時間を設定し5か月が経過

救急活動時間の再調査（Check）を実施

・・・救急隊活動に変化が現れ始めた！



## ① ショック輸液

	件数	接触～ 指示要請
2017～ 2018	441	12:44
2019 4～8月	147	11:10

1分34秒短縮

## ② CPA

	件数	接触～ 指示要請	接触～アドレ ナリン投与
2017～ 2018	631	8:07	18:47
2019 4～8月	146	5:13	16:54

2分54秒短縮

1分53秒短縮

# まとめ

- 各消防本部の指導救命士が自ら当地域内の問題を抽出、検討し、改善策を地域内の救急隊員、一次検証者、二次検証者などに働きかけることで、救急活動を改善した。
- 救急活動の質の向上を達成するためには、救急隊活動を調査、問題点を抽出し、多機関へと介入を行うべく各委員会に横断的に参画していくことが必要である。
- MC医師とともに、PDCAサイクルを回す中心的な役割を担うことが、MC認定指導救命士の責務である。